

---

# 超能力学園

ATURA

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

超能力学園

### 【Zコード】

Z5219C

### 【作者名】

ATURA

### 【あらすじ】

超能力のテレパシーを使える亮と愉快な仲間達のお話。バトル小説ってわけではありません。恋愛小説でもありません。極端なギャグ、コメディー小説です。

(前書き)

途中ホラーかもって行があります。  
また、行き過ぎたギャグもあるのでご了承ください。

俺の名前は「須立亮」（すだちりょう）。

長農緑学園の高等部1年生だ。

え？ 学園の名前が変？

「なんだ、実は何を隠そう、俺は超能力として「テレパシー」が使えるんだ。

生まれた時は口を動かさずテレパシーで話していく、両親は腹話術と勘違いしていたが、

中学校に上がり、とうとうテレパシーだと気づき「気づくのが遅い」國家公認のこの、超能力者が集う「長農縁学園」に転入したのだ。ちなみにこの「超能力」を「長農縁」と書いている理由は、ばれない為と表向きが農学専門学園だと思われるためらしい。

なにせ純100%「変能力者」の巣くつだからである。

「超能力者のための教育機関」をモットーにしているため、別にヒーローになれる学園でも、日夜世界の平和を守っているわけでもない。

1  
-  
D

俺の教室だ、さあ入るか。

「ドオオオオオオ」

「あ、  
わり、亮か、ごめんごめん」

いきなり爆発で迎えてくれたのは「レバ・喜岐州」（レバ・キギュウ）

能力は爆発。

「ちょっとアリが俺のマントを奪つてしまー」

なぜかこいつは爆弾人間の癖にさらに爆発グッズマニアといつ危険人物なのだ。

で？アリはどうした？

「窓から逃げやがった」

ちなみにアリとは「桃井 亜季」（ももい あり）

能力は不死身。

おい、窓からって、ここ4階だろ？

「ああ、きっと・・・」

「ばあ～、かわいいアリちゃんなんだよ～」

足が変な方向に曲がって首は折れてだれてるしどこ等じゅうに血を撒き散らして、

おまけに腕が取れて骨が見えている状態でよくブリッコでいられるな、

お前のせいできょとホラーが入っているぞ。

そつ、何を隠そつ、こいつは不死身ではあるが傷は負う、通称「モンスター」なのだ。

いいから保険の先生に見てもらひうぞ、  
「ごめん、足動かないから手伝つて」  
お前よく上がつてこれたな、

「慶は腕持つてて」

取れた腕を持たされる慶、

保健室

「ここが痛いの～～？」

「ぎやかあああ！！！痛い！痛い！」のどう先生がーーはなせーー

保健室から絶叫が聞こえてきた。

ぎやかあつて・・・かわいそう。。。

「失礼しま～す」

「あら、慶君？なに？また爆発しちゃったの？」

美人の先生はある生徒の上に乗つて答える・・・やべえよ。

「いいえ、アリがまた傷をして」

「あらあら、大変、すぐ直すわね」

この先生も能力者で治癒の能力を持つている・・・Sだけど。

「あ、英真じやん」

かわつてさつきまで拷問を受けていたのは「川井 英真」（かわい  
えいま）

能力は千里眼、つまり遠い所が見える目の持ち主。

「くつそー、あのセンゴウめ！火傷した背中を踏みやがつて！」

ほう、それは酷い。

「だろ！亮もわかってくれるか！うーー、頼む！助け！」

「はーーい、慶君、亮君、英真君はすっごく大きな怪我をしている  
からそろそろ」

「はーい」

それじゃあ、

「ま、まてーー見捨てるのかーー！」

「え？じやあ2人のどっちか残るの？いいわよ、ウフフフ」

冗談じやない、あの先生に捕まれば最後おもちゃにされてしまう。  
英真のさらなる叫び声を後に俺達は保健室を出た。

ちなみにあの先生は男の子が好きだから女には手を出さない。

「そういえば、英真君火傷してたね」

すっかり回復したアリが言う。

「ああ、あれだと、光がやつたんだろ」

「栄堂 光」（えいどう ひかり）

能力は火を自由自在に操る、

実はもっとも手のつけられない問題児でこの学園のトラブルメーカー  
一である。

「あ、中等部の教室燃えてる」

さらつと言つアリ、

つてやべええじやん！おー！青次を呼べー！

「ああ～、ありや完全に光怒つてんな」  
慶はのんきに言つ。

「呼んだかい、亮君？」

すつごくのひまそつな奴だが、」いつは「田上 青次」（たかみせいじ）

唯一この学園で光と対抗できる超能力者たる  
能力は水を自在に操る。

「あ、また光ちゃん怒ってるの〜?」  
あとアリも対抗できるが本人がやる気無い。

「なんだよ、とりあえず光に呼びかけてみるよ。」  
俺は得意のテレパシーで光に呼びかけてみる。

お~い、光、どこにいる？

すると光は案外近くにいた、

赤毛でロングヘアの美少女、だが燃えている。

慶が丸

「誰かが二ト口ふつ掛けで来たのよー！」

「魔物呪ひの!!」

しまった、テレパシー切つてなかつた。

「 そ う よ ！ 光 ち ゃ ん ！ 犯 人 は 慶 な の ！ ！」

けい

地獄の業火より熱そうな炎が感じられる。

「あら、口あがんだの？」「あ、違う！俺じきなーーー！」

「確かに俺のだけど……いや……」

ପାତା ୧୦୦

光は調理室を溶かし窓から飛び降りてきた。

「あわわわわ！・・・青次！・

「むりだよ、あの温度だと僕が蒸発しちやうよ」

「ズン！！」

熱風の中から暴神、光が現れた。

「ル・ヌ・ヌ」

なんとも可愛い笑顔と近寄つただけでも溶けそうな炎、

さすが慶、陸上部の風神という異名は本当だつた。

# 一方熱風でジェットエンジンの速さを誇る光

あ、またよ？火の光と爆発の煙が接触したら……

# 「爆発しちゃうね、この学校」

「ううむ、逃げたほうがいいね」「

意義なし・・。

卷之三

え盛る。中國を厭へ、一朝

・・・青次、消化活動手伝いに行くか

「 そ う だ ね 、 そ ろそ ろ 行 こ う か 」

「え、私いや、不死身だから救助活動手伝わされると危ない

「はい」

で、教頭先生の超能力「復元」で、校舎は見事直った。

死者も出たが校長の超能力「蘇生」で何とかした。

あと近所の人には教務の先生が「偽記憶」とかで何とかした。

「ま、結局いつも通りのことでしたよ」

ああ、入学当時からいつもこうだもんな、  
つて！お前がほとんどやらかしてるんだるがーー！

終わり

(後書き)

どうでしたか、  
できればぜひ、感想を送つてください。  
アドバイスでもいいです。  
続編書いてでもこの際良いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5219c/>

---

超能力学園

2010年10月9日01時08分発行